

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

独居認知症高齢者の地域生活を安定化させるケアマネジメントに関する文献レビュー
独居認知症高齢者のケアマネジメントとは何か

研究分担者 石山麗子 国際医療福祉大学大学院・教授

研究協力者 鈴木善雄 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科博士課程

研究要旨

独居認知症高齢者に対応するケアマネジメントの重要性が指摘されている。本究ではスコーピングレビューにより独居認知症高齢者の地域生活安定化を目指すケアマネジメントの在り方に関する論文を抽出・精査し、先行研究の知見を整理するとともに、独居と非独居におけるケアマネジメントの差異について知見を得ることを目的とした。

文献検索データベース及びハンドサーチを用いて、最終的に8件の論文を採択した。独居認知症高齢者のケアマネジメントについては、支援の困難性や在宅生活継続の観点から言及されていることが確認できた。しかし、調査対象が極めて限定的であり、具体的なケアマネジメントにおける配慮事項について検証された報告はなかった。また、非認知症・非独居とのケアマネジメントと比較した報告はほぼ認められず、今後の検証作業が期待される。

A. 研究目的

要支援・介護高齢者の「在宅生活の継続性」を確保するためには、適切なケアマネジメントが極めて重要であるとされている^{1,2)}。特に独居認知症高齢者における在宅生活継続の困難性については様々な先行研究によって報告されており³⁻¹⁰⁾、中島ら¹¹⁾は独居であることに加えて、認知症であることの2つの要件が重なる独居認知症高齢者の在宅生活継続についての検証は、今後の介護政策やケア提供の在り方を考えていく上で重要な課題の一つであるとしている。

我が国における独居認知症高齢者に関する研究は、2000年代に入り報告されるようになったが¹⁰⁾、独居認知症高齢者に対応するケアマネジメントに関しては、その重要性が指摘されているものの^{1,12)}、これまでに独居認知症高齢者のケアマネジメントにおいて配慮されるべきことを検証した報告は認

められない。また、独居認知症高齢者と非独居認知症高齢者のケアマネジメントの相違についても、実態が十分に把握されているとはいえない。

よって、本研究では文献検索データベース及びハンドサーチを用いて、独居認知症高齢者の地域生活安定化を目指すケアマネジメントの在り方に関する論文を抽出・精査し、先行研究の知見を整理するとともに、独居と非独居におけるケアマネジメントの差異について知見を得ることを目的とした。

B. 研究方法

医学中央雑誌及びCiNiiを用いて、「認知症」「独居 or 一人暮らし or ひとり暮らし」「ケアマネジメント」をキーワードとしたand検索を行い、会議録及び重複を除く99件の文献を抽出した。またPubMedを用いて、「dementia」「live alone or living alone

or single person」 「care management or case management」をキーワードとした and 検索を行い、9 文献を抽出した（文献検索日 2022 年 12 月）。さらに、ハンドサーチで収集した報告書や論文 280 件を含め、抽出した文献を精査し、最終的に 8 件の論文を採択した。

（倫理面への配慮）文献を取り扱う際には、著作権を侵害することがないように配慮した。なお、本研究では個人情報情報は扱っていない。

C. 研究結果

1) 独居認知症高齢者に対する支援困難性

齋藤ら¹³⁾は、ケアマネジメントにおける介護支援専門員の対応困難感の実態について、「独居認知症利用者のケアプラン立案」が設問全 41 項目中 2 番目に困難性が高く、同項目は困難感の程度と困難経験の頻度共に高いことを報告している。また、山崎¹⁴⁾は、一人暮らし高齢者の生活実態及び認知症高齢者の在宅生活の継続と施設入所の現状、介護支援専門員による支援の実態についての文献レビューにおいて、介護支援専門員は、独居認知症高齢者を対象としたときのアセスメントにおけるニーズ分析からサービスプロセスで多くの困難を感じているとしている。総じて、介護支援専門員という支援者側からは、「困難さ」というネガティブな視点が注目されていることを指摘している¹⁴⁾。

2) 独居認知症高齢者の在宅生活の継続について

独居認知症高齢者が在宅生活を継続する上でのケアマネジメントの視点として、工藤¹⁵⁾はケアマネジメントプロセスの繰り返しとパーソン・センタード・ケアの視点が認知症ケアの基本であること、さらに、不安・混乱を解消させるケアを行うことで BPSD の軽減に努めたことを報告している。また、サービスの導入について、中村¹⁶⁾は本人の意思を尊重して通所系サービスを利用しない選択をし、本人が望む生活(環境を変えな

い)を継続することで BPSD の進行を送らせることに繋がったとしている。しかしながら、これらの報告は、単一症例のみの検証であることについて留意しなければならない。

独居認知症高齢者の在宅生活の継続に関する限界点については、介護支援専門員へのインタビュー調査から検討した報告がある^{17, 18)}。いずれも独居認知症高齢者には、本人の在宅独居生活に対する強い意思があるが、本人の希望があっても周囲が支えられず限界に達しているとしている。久保田ら¹⁷⁾は、本人の希望は尊重されるべきであるが、火気の取扱いなどの本人の生命の確保ができるかという視点は、独居生活の限界を見極めるために重要であると報告している。また、BPSD の出現を予防していくためのかわり方など、支援方法の具体化が課題になるとしている。また、久保田ら¹⁸⁾は、本人と家族達の危険認識の相違と支援者側の予測介入の必要性を指摘している。

また、中島ら¹¹⁾は独居認知症高齢者の在宅生活継続を困難とする生活上の課題について、介護支援専門員へのインタビュー調査から、「生命の安全を脅かし得る危機」、「セルフマネジメント能力の低下」、「日常生活のほころび」、「必要なサービスの直前キャンセルや拒否」、「十分に頼れない家族との関係」、「脆弱な近隣・友人との関係」の 6 カテゴリーに整理した上で、認知症高齢者を地域レベルで支えていくことの必要性について報告している。

3) 独居認知症高齢者のケアマネジメントと非独居群との比較

Webber ら¹⁹⁾は、独居認知症高齢者は障害の程度は軽度であることが多いとした上で、同居群と比較して通院などの医療サービス利用が少ない、デイケアの利用が少ない、何もサービスを利用していないなどの傾向がある一方で、ケースマネジメントの介入率が有意に高かったと報告している。

また、独居認知症高齢者は、他の高齢者とは異なる健康および社会サービスのニーズを持つ傾向があるとした上で、できるだけ長く地域社会で安全にとどまることを助けるために、サービスを提供する最善の方法を検討することが重要であるとしている。

D. 考察

独居認知症高齢者のケアマネジメントにおける困難性は、支援者側の視点をもって示されていた。一方で、具体的な困難性の程度や内容、非独居のケアマネジメントとの比較などに関して触れている報告はなかった。よって被支援者側の視点に立った検証や非独居群との比較等によって、独居認知症高齢者のケアマネジメントにおける困難性についての検証が必要であると考え、さらには、高齢者を老化や機能低下といったネガティブなイメージでとらえるのではなく、個々がそれぞれ持つ可能性や力をひきだすケアマネジメントが必要であるという指摘¹⁶⁾についても考慮されるべきであると考え。

また、独居認知症高齢者の在宅生活継続については、堀田ら²⁰⁾や中島ら²¹⁾が、「独居」であることと「認知症」であることの双方の要因が絡み合い、それぞれ独居生活継続のリスクに繋がっていることを報告しているが、本研究の採択文献においても同様の指摘がなされていた。しかしながら、現状の生活形態を考える上で、ケアマネジメントにおいて具体的にどういった配慮がなされるべきかについて言及している報告はなく、また、量的な視点において検証がなされた研究はほぼ認められなかった。よって、質的・量的ともに更なる検証の積み重ねが必要であるものと考え。

最後に、独居認知症高齢者のケアマネジメントと非独居との比較についてであるが、先行研究ではCastilloら²²⁾や、Clareら²³⁾が、非独居群とのニーズの相違、社会的接触

や在宅介護サービス利用の多寡について述べている。堀田ら²⁴⁾は、独居認知症高齢者は、非独居群に比して孤独であり生活満足度が低くアンメットニーズが高いこと、診断がついたことに一度は安堵するものの、診断後の適切な支援の調整が不十分となり、対処法について不安感をもつ場合があることを指摘している。しかしながら、本研究の結果では、独居認知症高齢者のケアマネジメントが、非独居のケアマネジメントと比較して具体的にどのような差異があるのかについては明らかにしている研究は認められず、そもそもケアマネジメントへの言及が、介護支援専門員の感じる困難性をもって置き換えられている例が散見された。また、Webberら¹⁹⁾の報告は、ケアマネジメント（ケースマネジメント）に言及はしているものの、選択されるサービスの1つとして扱われていることに留意が必要である。

一方で、中島²⁵⁾は単身要介護高齢者に対するケアマネジャーによる在宅継続支援の実態と課題に関する研究において、一定数の認知症高齢者が単身世帯であることを指摘した上で、独居要介護高齢者においては、キーパーソンがいる場合といない場合があり、いない場合はケアマネジャーの支援がさらに困難になる可能性を指摘している。つまり、独居群と非独居におけるケアマネジメントの差異という視点の一方で、独居であってもキーパーソンの存在の有無によるケアマネジメントの差異についても考慮しながら検証していく必要があるものと考え。

E. 結論

独居認知症高齢者のケアマネジメントについては、支援の困難性や在宅生活継続の観点から言及されていることが確認できた。しかし、調査対象が極めて限定的であり、具体的なケアマネジメントにおける配慮事項について検証された報告はなかった。また、非認知症・非独居とのケアマネジメン

トと比較した報告はほぼ認められず、今後の検証作業が期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし.
2. 学会発表
なし.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

(引用文献)

- 1)三菱総合研究所：平成 28 年度厚生労働省老人保健 事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）「適切なケアマネジメントを推進するための保険者機能のあり方に関する調査研究事業報告書別冊 実践事例から学ぶ 効果的なケアプラン点検の実施方法」. 2017.<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000>. (2022.12.23 閲覧).
- 2)厚生労働省：認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）認知症地域支援推進員（概要）. 2015.<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000064084.html>. (2022.12.23 閲覧).
- 3)松下由美子：一人暮らし認知症高齢者に関する文献レビュー. 日本在宅ケア学会誌, 15(2), 25-34 (2012).
- 4)下垣光, 矢部正治, 金井一薫：独居生活を送っている認知症高齢者の生活実態と支援について居宅介護支援事業所への調査から. 老年社会科学, 30(2)：361 (2008).
- 5)川合承子：要支援・要介護認定を受けたひとり暮らし在宅高齢者の買い物・調理と日常生活自立度との関連および実行に必要な要因についての検討. 国際医療福祉大学紀要, 16(1-2)：54-62 (2011).
- 6)松下由美子：一人暮らし認知症高齢者の身体的, 精神的症状の安定化を図る訪問看護師の働きかけ. 大阪府立大学看護学雑誌, 22(1)：35-44(2016).
- 7)松下由美子：サービス開始時における一人暮らし認知症高齢者への訪問の継続を図る看護師の働きかけ. 日本在宅看護学会誌, 5(1)：124-133(2016).
- 8)松下由美子：認知症高齢者の一人暮らしを支える訪問看護師の援助. 聖路加看護学会誌, 16(2)：17-24(2012).
- 9)木下ゆかり：早期に認知症の兆しを発見し対応したことで, 独居生活が維持できている事例. 認知症ケア事例ジャーナル, 2(2)：115-120(2009).
- 10)中島民恵子：独居認知症高齢者における在宅生活継続の阻害要因に関する文献レビュー. 日本在宅ケア学会誌, 25(2)：225-232(2022).
- 11)中島民恵子, 大林由美子：独居認知症高齢者の在宅生活継続を困難とする生活上の課題に関する研究 —介護支援専門員へのインタビュー調査を通して. 高齢者のケアと行動科学, 27：39-49(2022).
- 12)株式会社日本総合研究所：令和元年度厚生労働省老人保健事業推進費補助金（老人保健健康増進等事業）「適切なケアマネジメント手法の策定に向けた 調査研究事業 報告書」. 2020.https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/pdf/210414_r2tekisetsuna_houkokusho.pdf (2022.12.23 閲覧).
- 13)齋藤 智子, 佐藤 由美：介護支援専門員のケアマネジメントにおける対応困難の実態. 千葉看護学会会誌, 12(2):8-14(2006).
- 14)山崎 葉子：一人暮らし認知症高齢者の

- 在宅生活継続を支援する介護支援専門員の支援実態に関する文献研究. 上智社会福祉専門学校紀要, 10 : 27-35(2015).
- 15)工藤 英範：独居生活を続ける認知症高齢者に対する支援について. 理療, 51(2) : 44-48(2021).
- 16)中村 智子：高齢者のケアマネジメントー軽度認知症の高齢者が一人暮らしを続けるためのケアマネジメント. 高田短期大学人間介護福祉学科年報, 5 : 1-7 (2010).
- 17)久保田 真美, 堀口 和子：介護支援専門員がとらえた認知症高齢者の独居生活の限界 独居生活開始から施設入所までの過程より. 日本在宅ケア学会誌, 21(1) : 67-75(2017).
- 18)久保田真美, 高山成子：認知症高齢者の独居生活；認知症高齢者が語る体験や思いと介護支援専門員の語る危険から. 関西国際大学研究紀要, 18 : 23-35 (2017) .
- 19)Webber PA, Fox P, Burnette D : Living alone with Alzheimer's disease: effects on health and social service utilization patterns. *The Gerontologist*, 34(1) : 8-14 (1994) .
- 20)堀田聡子, 大村綾香, 津田修治, 大森千尋：認知症とともに一人で暮らす高齢者本人の経験と在宅での生活継続が困難になる要因に関する文献調査；厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)分担研究報告書(研究代表者：栗田主一), 令和3年度報告書(2022).
- 21)中島民恵子, 中西三春, 沢村香苗：大都市圏における要介護高齢者の在宅継続に関する研究報告書. 医療経済研究機構, (2012).
- 22)Miranda Castillo C, Woods B, Orrell M: People with dementia living alone; What are their needs and what kind of support are they receiving? *Int Psychogeriatr*, 22 (4) : 607-617 (2010) .
- 23)Clare L, Martyr A, Henderson C, Gamble L, et al.: Living Alone with Mild to Moderate Dementia; Findings from the IDEAL Cohort. *J Alzheimers Dis*, 78 (3) : 1207-1216 (2020) .
- 24)堀田聡子, 大村綾香, 津田修治, 大村千尋：認知症とともに一人で暮らす高齢者本人の経験と在宅での生活継続が困難になる要因. 老年精神医学雑誌, 33 (3) : 224-229 (2022) .
- 25)中島民恵子, 沢村香苗, 山岡淳：単身要介護高齢者に対するケアマネジャーによる在宅継続支援の実態と課題. 社会保障研究, 1(1) : 183-191(2016).